



■ご挨拶

会員各位におかれましては、2012年の新春を、ご家族お揃いで健やかにお迎えになられたことと拝察し、心からお慶び申し上げます。

昨年は生涯忘れることの出来ない、千年に一度ともいわれる、東日本大震災に見舞われ、更に追い討ちをかけるがごとく、相次ぐ台風による水害で、多くの尊い人命と財産を失うという、正に未曾有の国難を背負っての一年でした。

未だに多くの行方不明者を残し、復旧・復興もままならない状況が続いており、福島原発事故の収束も未だ先が見えず、避難者の厳しい暮らしが続いています。

国際的にも私たちの生活に即直結するような、出来事が相次いで起こっております。米国債史上初の格下げにみる米経済の動向・ギリシャの財政破綻危機・これらの影響を受けての、円の独歩高等々日本経済への影響も深刻なものがあります。

更に昨年末、北朝鮮の“金正日”総書記の急逝とその後継としての“金正恩”氏の就任は、今後の国際政治にどのような影響を及ぼすのか、極めて不透明な状況にあります。

このような世情の中で、この国難を乗り越えて行かなければなりません。

2009年9月に政権交代を果し、2年4ヶ月を経過した民主党政権は、「消費税増税」論議をめぐり、党内の意見がまとまらず離党者も出る中で新年を迎えました。

今年の政治の動向は、大震災の復旧・復興の加速と「社会保障と税の一体改革」、消費税の増税・地方行政のあり方等々課題山積であります。

私達は高齢者の生活に大きな影響をもたらす、年金・医療・介護を中心とした社会保障の有り方について強い関心をもって、行方を見守って行かねばなりません。

全国高退連・JAMシニアクラブ等、上部組織との連携を強め、積極的な日常活動の推進が求められます。JVCシニアクラブ結成10年目の今年は、以上のような社会情勢を踏まえて、更なる充実した組織確立を目指して活動を進めて参ります。

会員各位の積極的なご協力を切にお願いし、新年のご挨拶と致します。

■ 昨年の世相を表す漢字「絆」

昨年3月の大震災では国内のみならず、全世界からの支援の手が寄せられて、そこには多くの絆が生まれました。

まさに昨年の世相を表す漢字はこの「絆」でした。

昨年の「なでしこジャパン」の活躍も監督や選手同士の絆があつてこそそのチームプレーの賜でした。

新年の大学箱根駅伝は東洋大学が圧倒的な強さで優勝しました。一方で復路の戸塚や鶴見の中継所では、たすきを繋げることが出来なかったチームがありました。選手の必死の形相にはこの絆を絶ってはならないという思いが表れていたようです。

シニアクラブとしてもこの絆を大切に、お互い元気に良い年を過ごしていきましょう。



■ トピックス「年金交付国債」

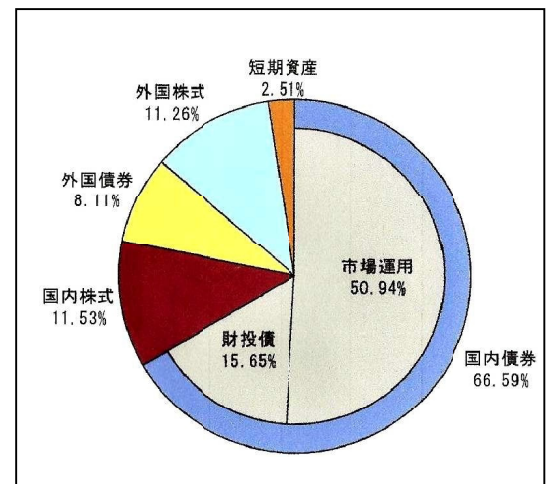
政府は平成24年度予算案策定の中で、基礎年金の国庫負担割合を50%に維持するため必要な2.6兆円を賄うべく年金交付国債の発行を決定しました。

社会保障費用をはじめとして年々増加する国の支出をまかなう苦肉の策といえるでしょう。国はこの交付国債の発行と引き換えに、“年金積立金管理運用独立法人”(GPIF)から積立金を取り崩して2.6兆円を借用することになります。そして、消費税の増税が実現した暁にそれを返済するという仕組みです。

交付国債は一般会計に計上する必要がないため、政府としては新規国債発行額を約44兆円以下に抑える目標を達成したと言っています。

しかし消費税増税が実施されなければこのお金は戻ってきません。これではますます消費税増税の流れの外堀を埋められてしまう感じがします。

GPIFが運用する年金積立金は平成22年度末で約116兆円、21年度末から約6兆円が目減りをしています。安定した年金制度を維持していくためにもこのような年金積立金に手をつけるような方策は採ってもらいたくないところです。



総額116兆円の資産構成割合
(平成22年度 GPIF 資料)

■ 事務局から

昨年10月に会社は完全に統合して新体制で始動しました。

一方で、労働組合は日本ビクター、ケンウッド共に従来どおりそれぞれの組織として活動しています。今後、この体制をどのようにしていくのか、双方の労組で話し合いが進められています。

シニアクラブとしてもこの状況について労組幹部との情報交換を行いながら進展に注目をしているところです。

事務局長 田代 周